

南アルプスと歌舞伎の里へ

日本で最も美しい村
大鹿村

第5回
「日本で最も美しい村・大鹿」
フォトコンテスト
入賞作 作品集



第5回

「日本で最も美しい村・大鹿」 フォトコンテスト審査総評

審査委員長 写真家 白簾史朗



第5回「日本で最も美しい村・大鹿」フォトコンテストの審査は平成27年10月14日、午前から大鹿村役場2階会場で開始された。応募作品総数123点、第1回～第4回に比して、若干の減少はあったが、応募者全員が全力を尽くしての作品はさすがに力と美しさに満ちていて、審査は難航。2時間を費やして、午後1時、最優秀賞1、優秀賞5、入選10を選出した。「日本で最も美しい村」のキャッチフレーズ通り、四季を表現した大鹿村の風物、風景はさすがに美しく、見事で、順位を決定する時間は大幅に伸び、難航した。紆余曲折の末、決定した16点の作品はいずれも甲乙つけ難く、撮影者にとっては入選順位に不満が残った方もあると考えるが、選者としては一切のえこひいきはなく、公明正大に意を尽くしたことを表明したい。

「最優秀賞」は「祈り」一愛知県安城市の石川朋子氏、雪の中に立つ石碑と石像、それを逆光による表現で見事な雰囲気をかもし出している。逆光でいながら調子がつぶれなかったのは、地表に雪がうっすらと積もっていたこと、前方の山肌のくらい山腹の雪が、また雰囲気を余すところなくかもし出している。左方に立つ樹木の枝が少々うるさいので、若干左方をカットしたが、ムードはより向上し、「最優秀」賞にふさわしいものとなった。これは撮影者の敬虔な心情が、仏さまに反映して、この作品になったのだ、と考えたい。第5回コンテスト、第一の秀作であった。

「優秀賞」は全部で5点、美しいもの、敬虔な心情の作品、楽しい写真、重厚なものなどの5点である。

「静かにおわす大西観音」一中島信行

反面を逆光に浮かび上がらせた地蔵尊、右手に紅葉を配し、左方一帯は日陰の中にあって、アウトラインのみ浮かび上がらせている。豊かな調子、いかにも敬虔さの満ちた画面、仏さまの写真としては第一等であろうと思う。災害や人力による破壊を超えて、人間の心が仏さまに通ずることがテーマであり、人の心の美しさこそ大切と私たちに語りかけてくれるような画面だ。

「僕もたたきたいよ」一佐々木恵子

サクラのもとで大鹿太鼓をたたき、踊る情景は、私たちの幼い日を思い出させる。いかにも楽しい光景だ。思わず、わが幼い日の光景がダブってくる。あの楽しい日々は私たちにはもう還らない。その哀しみと共に未来への希望もまたよみがえってくる。

「花に囲まれて」一宮澤信 「大鹿村の春」一松島信雄

「日本で最も美しい村」のキャッチフレーズそのままの美しいたたずまい。こんな美しい村に住んだら、きっと長生きできるだろうと思わず思わせるような光景、このおふたりは期せずしてこの場面に着目した。これを見ると誰しも、こうした美しい場所に住み、極楽浄土に遊ぶ心地を夢見るだろう。こんな美しい地は本当に存在するんだと私たちを両手ひろげて待ちわびる土地、私たちの夢。

「大鹿逆銀杏」一金森悦三

天然記念物であるこの銀杏は樹の下枝とコブが地表にまでのびて垂れ下がっている。そのさまが枝が逆さになって見えるので、この名がある。根が宙に浮いているようでも、下枝が垂れ下がっているようでもあり、奇観といえる。村の天然記念物として名高く、昔、弘法大師が使用していた杖を地表に突き刺したものが根付いた、といういい伝えがある。一見にしかずである。

入賞作品10点も大鹿村の最も美しい場面をそれぞれに表現していた。

説明が重複するので、個々の批評は避けたが、各人それぞれに美しく、的確に的を絞る、各自のセンスと個性を生かしての表現は、あと一歩ともいえるが、必ず第6回に花ひらくことと考え、大いに期待したい。

●審査委員長：白簾史朗

●審査委員：大鹿村議会議長 熊谷英俊・大鹿村商工会長 松尾 勲・大鹿村観光協会副会長 前島正介・大鹿村長 柳島貞康



最優秀賞

祈り

石川朋子
(安城市)

眺めの良い所で会いました。後方に
厳しい山、下に村
を見渡せ季節毎に美
しく、お地藏さん
は、それぞれ村内の
無事と安全を深く心
に祈ってらっしゃる
ようお見受けしまし
た。

平成27年1月3日撮影



優秀賞

花に囲まれて
宮澤 信 (中川村)

多くの方が撮るポイントですが花が終わりかけていた。ちょうど田のあぜ作りを始めていたのでお願いして撮らせていただきました。

平成27年4月26日撮影



優秀賞

静かにおわす 大西観音

中島信行
(飯田市)

悲惨な災害遺産が、
悲しみをのりこえて、
地域の方々の思いが
詰まった象徴的な場
所になっている。

平成26年11月4日撮影



優秀賞

大鹿村の春
松島信雄（飯田市）

赤石岳を望む大自然

平成27年4月18日撮影



優秀賞

僕もたたきたいよ！
佐々木恵子(小牧市)

満開の桜の下で大鹿太鼓をたたいている姿は本当に勇ましくて、カッコ良かったです。思わず自分もたたいている少年が、とてもほほえましかったです。

平成27年4月18日撮影



優秀賞

大鹿逆銀杏

金森悦三
(高森町)

逆銀杏は、日本一の
美しい銘木と思いま
す。この美しい大木
をもっと世に広めたい
と考えます。

平成26年11月撮影



入選

超満員の大鹿歌舞伎

宮島順子（飯田市）

初めて大鹿歌舞伎を観劇させて頂いて、伝統ある歌舞伎が村の人々によって、美しい村の中で連綿と続いていることに心が震え、下伊那地方の良さを実感致しました。

平成26年10月19日撮影



入選

大鹿村大池高原ハスの花

遠藤正治（駒ヶ根市）

大池高原内6月20日（土）の日にハスの花手前くりん草の花をマッチした作品です。

平成27年6月20日撮影



入選

初冠雪

菅沼春彦（飯田市）

紅葉に初雪がマッチしたところをとらえました。（初冠雪に出合わせたことラッキー）

平成26年10月24日撮影



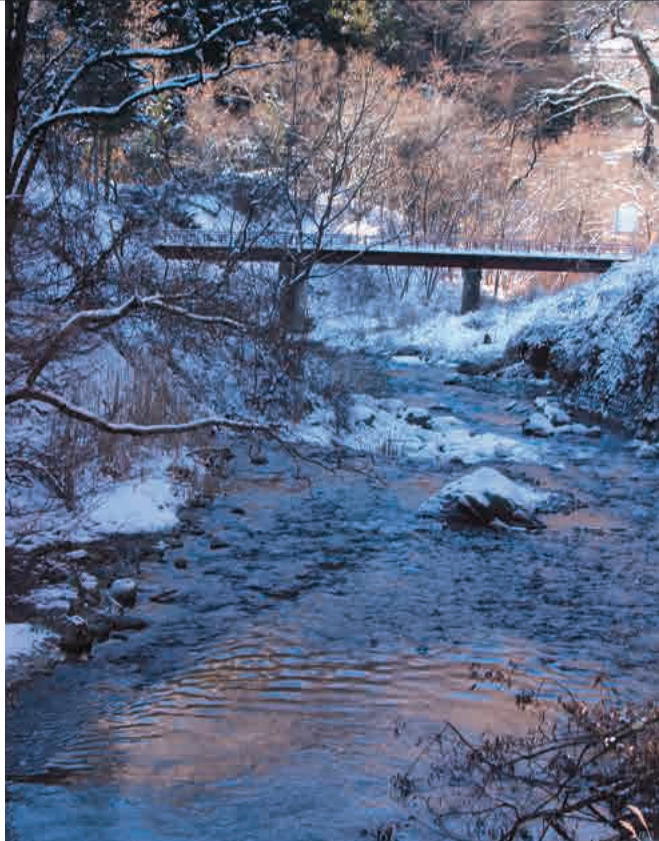
入選

色取る

大原 稔（豊丘村）

カエデの赤と、広葉樹の黄色が青空に映えてきれい。

平成26年10月25日撮影



入選

冬の朝

石川彰弘（安城市）

朝日輝く山と川面

平成27年1月3日撮影



入選

赤石岳に見守られて

紺野香糸（大鹿村）

寒さ厳しい大鹿の冬の合間に、太陽が照らしてくれた穏やかな白銀の大地。それらを見守る赤石岳。

平成27年2月9日撮影



入選 庵ひとつ…御所平の秋

鳴海寿勇（飯田市）

訪れる人も少ない御所平ですが、色づいた黄葉が風に静かに舞い落ちる風情は見事です。

平成25年11月1日撮影



入選 お持ち帰りの赤石岳 久保田莉奈（飯田市）

ツアーで大鹿に泊まって絵を描いていたおじさんが切り撮った美しい景色と実際に目で見た景色を写真というキャンバスに2つの美しさを残しました。立ち止まって絵を描きたくなくなるくらい美しい景色なのだと思います。

平成26年5月11日撮影



入選

秋満る

稲田知子 (大鹿村)

山奥にひっそりと背高のつぼの木がありました。
平成26年11月8日撮影



入選

山眠る

齋藤絵美理 (大鹿村)

雪山と集落が一目に見え、厳しく美しい冬の暮らしが伺えます。
平成26年12月19日撮影

春

咲き誇るさくらに
想いを馳せる



大西公園の桜

130種3000本の桜が咲く南信州を代表する桜の名所。見頃期間の4月中旬から下旬までは毎晩ライトアップされています。

4月撮影：小口照人

夏

自然の色彩に
魅了される



大池のくりん草

標高1500mの大池高原の大池の湿地に、6月上旬から中旬にかけて群生します。自生の場所が限られるデリケートで可憐な花です。

6月撮影：井出彰彦

3月

4月

5月

6月

7月

8月



大鹿歌舞伎(春)

山村の暮らしに溶け込みながら途絶えることなく受け継がれてきました。

5月撮影：木下良明

花桃

自生の花桃が、4月下旬から5月上旬にかけ、村内いたるところで見ることができます。

4月撮影：宮澤 信



青いケシ

国内での栽培は困難で、その希少性と低地で枯れてしまう儚さから幻の花として花愛好家の羨望的。

6月撮影

村内の2つの牧場では、夏の間、避暑のため牛の放牧がおこなわれ、のんびりと草をはむ様子が見られます。

8月撮影：平多修身



秋

鮮やかに色づく
実りの秋



大鹿の紅葉

標高差の高い大鹿村では、長期間紅葉を見ることができます。南アルプス、中央アルプスの冠雪と合わせ、豪快な紅葉を楽しめます。

11月撮影

冬

郷愁を感じる
里山の雪景色



冬の日、すべてが雪に覆われ、耳を澄ませば雪の降り積もる音が聞こえてくるようです。

2月撮影：下平昭七

9月

10月

11月

12月

1月

2月



大池高原

伊那山脈の向こうに中央アルプスを望めます。空にはパラグライダーを楽しむ姿も見られます。

10月撮影



タ立神パノラマ公園

赤石岳を目前に折り重なる紅葉を見ることができます。

11月撮影：佐藤信一



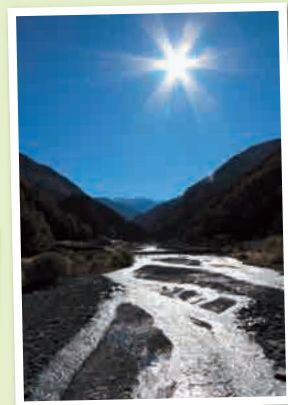
村に降りしきる雪の白さと木に残ったままの柿の色がキレイでした。まるで柿が村を見ているようでした。

12月撮影：稲田加奈子



山村の冬は、懐かしい風景を思い出させます。厳しい冬を、春を待ちます。

2月撮影：稲田加奈子





大鹿村は 「日本で最も美しい村」連合に 加盟しています。

「日本で最も美しい村」連合は、失ったら二度と取り戻せない日本の農山村の景観や環境・文化を守る活動を行うため設立された団体です。

自然と人間の営みが、長い年月をかけてつくりあげた小さな、本当に美しい日本は、いまならまだ各地に残されています。それらを慈しみ、楽しみ、そして、しっかりと未来に残すため、2005年10月に7つの町村からスタートしました。

2015年10月には設立10周年を迎え、加盟地域も60にまで広がりました。今後も活動をさらに展開し、小さくても輝くオンラインを持つ農山村が、自らの村に誇りを持って自立し、将来にわたって美しい地域であり続けられるような活動を積極的に行ってまいります。

「日本で最も美しい村」と認められるための条件

- 人口が概ね1万人以下であること。
- 地域資源が2つ以上あること。
 - ・景観—生活の営みにより作られた景観をいう。
 - ・環境—豊かな自然や自然を活かした町村又は地域の環境をいう。
 - ・文化—昔ながらの祭りや郷土文化、建築物などをいう。
- 連合によって評価された地域資源を活かすための活動があること。
 - ・美しい景観に配慮したむらづくりを行っている。
 - ・住民による工夫した地域活動を行っている。
 - ・地域特有の工芸品や生活様式を頑なに守っている。



大鹿村は ユネスコエコパークに 登録されています。

ユネスコエコパークとは、生態系の保全と持続可能な利活用の調和（自然と人間社会の共生）を目的として、1976年（昭和51年）にユネスコが開始しました。ユネスコの自然科学セクターで実施されるユネスコ「人間と生物圏（MAB: Man and the Biosphere）計画」における一事業として実施されています。地域の豊かな生態系や生物多様性を保全し、自然に学ぶと共に、文化的にも経済社会的にも持続可能な発展を目指す取り組みです。ユネスコエコパークは人間と自然の共生に率先して取り組んでいる地域として、国際的に認定された地域のモデルとして注目されています。

ユネスコ エコパーク 3つの機能

個々の機能は独立のものではなく、ユネスコエコパークを相互に強化する関係です。この3つの機能を果たするために3つの地域を設定しています。



ユネスコエコパーク 3つの地域

ユネスコエコパークは役割の異なる3つの地域で構成されています。



第6回「日本で最も美しい村・信州大鹿」フォトコンテスト 〈作品募集要項の概要〉

- [被写体] 大鹿村で撮影した風景
・大鹿村内で撮影したものであれば、被写体は大鹿のものでなくても可
（例：大池高原から撮影した中央アルプス）
・人物・動植物・建築物そのものがテーマと認められるもの、記念写真のようなものは審査対象外
・肖像権などについては応募者の責任とする。
- [撮影期間] 平成27年以降に撮影したもの
- [写真サイズ] カラープリントは四つ切りまたは四つ切りワイド、デジタルプリントはA4サイズ
- [応募方法] 作品すべてに所定の応募用紙を添えて郵送または持参（1人5点まで）
- [募集期間] 平成28年9月1日（木）～平成29年8月31日（木）
- [審査発表] 平成29年10月上旬
- [賞品等] 最優秀賞（1点）、優秀賞（5点）には賞状と記念品、入選（数点）には賞状を授与

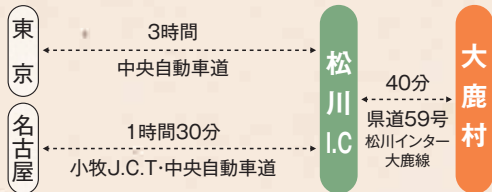
※その他詳細は、下記までお問い合わせください。

大鹿村役場 総務課企画財政係

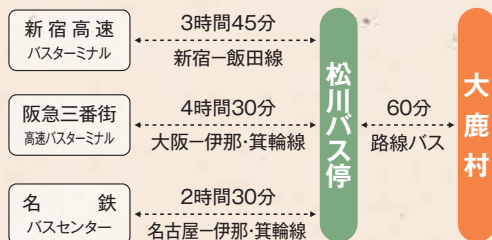
〒399-3502 長野県下伊那郡大鹿村大河原354

TEL 0265-39-2001 <http://www.vill.ooshika.nagano.jp/>

マイカーご利用の場合



高速バスご利用の場合



高速バス予約センター

- 新宿予約センター TEL 03-5376-2222
- 大阪予約センター TEL 06-6866-3147
- 名鉄バスセンター TEL 052-582-0489

JR飯田線ご利用の場合



Access



応募・お問合せ先

大鹿村役場 総務課企画財政係

〒399-3502 長野県下伊那郡大鹿村大河原354
TEL 0265-39-2001

<http://www.vill.ooshika.nagano.jp/>